

漁海況月報

平成27年10月9日

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

1 海況予測

(1) 現況

10月7日の人工衛星画像によると、黒潮は潮岬で接岸したあと東進し、八丈島の南を迂回しながら、東経141～142度を北上しています。

渥美外海沖は、駿河湾沖に小規模な暖水域があり、遠州灘沖の黒潮北縁から暖水の流入が見られます。また、潮岬以東の蛇行規模は縮小しつつあります。

(2) 予想

黒潮の流速は低い状態となっていますが、流軸は直進傾向となっています。

このため、熊野灘方面からの暖水波及は徐々に縮小し、渥美外海沖の水温は徐々に低下するものと考えています。

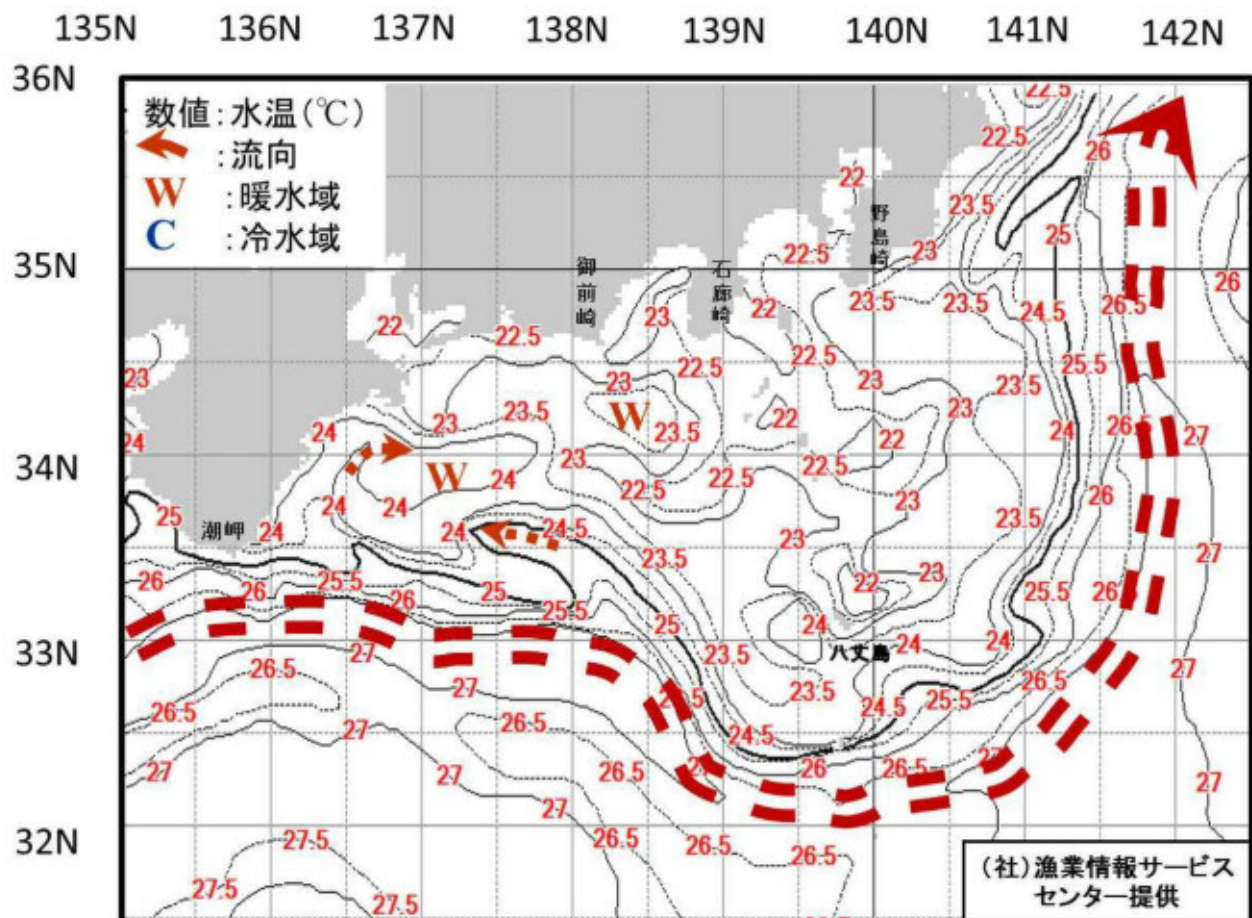


図1 海況の現況[2015年10月7日]

2 イワシ類

(1) シラス

9月の県内漁獲量は約164トンで、同じ時期としては、昨年及び平年を大きく下回りました。操業は、内湾及び外海で行われていました。

静岡県沖のシラス漁は、9月下旬以降、漁模様が好転していること、黒潮の熊野灘方面から渥美外海への暖水波及は弱まっており、渥美外海の水温は低下傾向となっていることから、シラスの来遊条件は好転するものと考えられますが、カタクチイワシ太平洋系群の資源量は低水準のため、今後も低調な漁獲となると予測されます。

表1 愛知県シラス類漁獲量 (単位：トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2010	0	0	0	7	440	753	256	220	782	1,642	365	39	4,503
2011	1	0	0	169	583	1,168	1,219	517	677	547	478	279	5,637
2012	9	0	0	110	444	832	1,383	1,167	679	1,142	496	181	6,443
2013	4	0	0	723	1,667	374	250	295	1,248	322	353	127	5,363
2014	0	0	0	594	2,828	527	18	891	672	1,400	592	236	7,758
2015	0	0	6	980	3,255	1,466	40	166	164				6,077
10年平均	5	0	7	409	1,357	971	644	654	647	676	381	147	5,900

(2) マイワシ (成魚・未成魚)

9月の操業の主体は伊勢湾口部及び三河湾となっています。

春のシラス来遊量が比較的豊富であったため、まとまった漁獲が期待されますが、内湾操業船のCPUEは低いままとなっており、現在の漁獲量が継続すると考えています。

表3 愛知県マイワシ漁獲量 (単位：トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2010	0	0	0	0	0	2	288	653	675	247	17	0	1,881
2011	0	0	1	0	2	29	361	1,223	1,091	264	68	4	3,044
2012	0	0	0	0	0	72	49	499	214	52	0	0	886
2013	0	0	0	0	1	8	107	577	295	3	0	0	992
2014	0	0	0	<1	0	104	269	1,547	1,334	617	422	180	4,474
2015	76	78	0	0	0	4	2,271	3,047	3,870				9,347
10年平均	0	1	0	0	1	32	167	568	423	165	72	24	1,006

(3) カタクチイワシ (成魚・未成魚)

9月の操業の主体は、伊勢湾内を中心に、一部伊勢湾口部となっています。

9月の県内におけるカタクチイワシの水揚げは1,066トンで、昨年の35%、平年の44%となりました。

カタクチイワシの太平洋系群の資源水準は低位のため、伊勢湾への1歳魚の来遊は期待できないことから、今後も漁獲量はやや低調に推移すると考えています。

表4 愛知県カタクチイワシ漁獲量 (単位：トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2010	0	0	0	0	1	1,529	4,844	4,819	1,775	590	1,497	973	16,028
2011	37	92	116	561	768	1,945	3,610	4,935	572	159	294	401	13,491
2012	46	0	0	260	1,471	1,792	1,824	3,704	2,197	483	851	354	12,983
2013	0	0	0	0	803	2,680	4,794	5,382	2,382	1,082	2,811	1,768	21,702
2014	446	0	0	655	269	2,864	5,389	3,742	3,009	2,609	1,971	703	21,657
2015	231	226	0	131	0	286	2,169	1,085	1,066				5,194
10年平均	61	25	12	214	738	1,861	3,926	4,091	2,398	1,526	1,312	737	16,899

3 トラフグはえ縄漁の見通しと初出漁の状況

漁業生産研究所では愛知県ふぐ縄組合連合会と共同で、9月22日に渥美外海においてトラフグはえ縄の試験操業を実施しました(図2)。採捕されたトラフグは合計411尾(14回操業)、1操業当たり(150針)の採捕尾数は29.3尾で、前年度(20.7尾)を上回りました。フグの全長は29~59cmで、36cm級の1歳が89%、42cm級の2歳が9%、46cm以上の3歳以上が2%でした。はえ縄試験操業で採捕された尾数とはえ縄漁獲量との関係(図3)からは、今年度の漁獲量は93.3トンと推定されます。しかし、試験操業当日が海況に恵まれていたことから、この予測値はかなり高めに見積もられていると考えられます。

一方、はえ縄漁業における年齢別漁獲尾数は、前年度の年齢別漁獲尾数からも推定が可能です(図4)。この方法では、今漁期のはえ縄漁での1~3歳魚の漁獲量は47.6トンと推定されます。どちらの推定結果を用いても、今年度のはえ縄による漁獲量は前年度(41.9トン)を上回るものと考えられます。

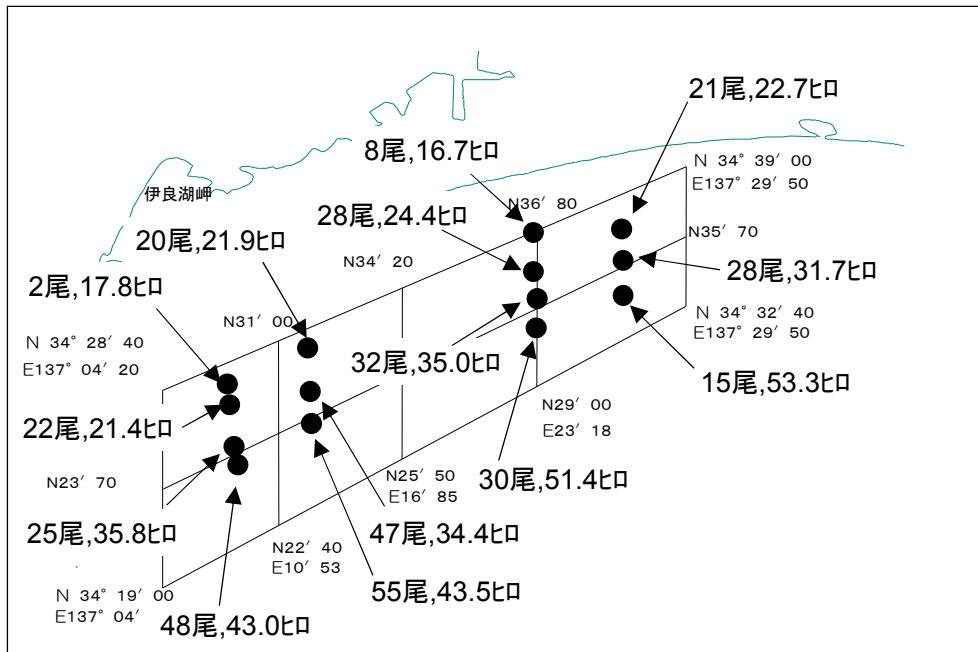


図2 トラフグ試験操業における操業位置と採捕尾数及び水深

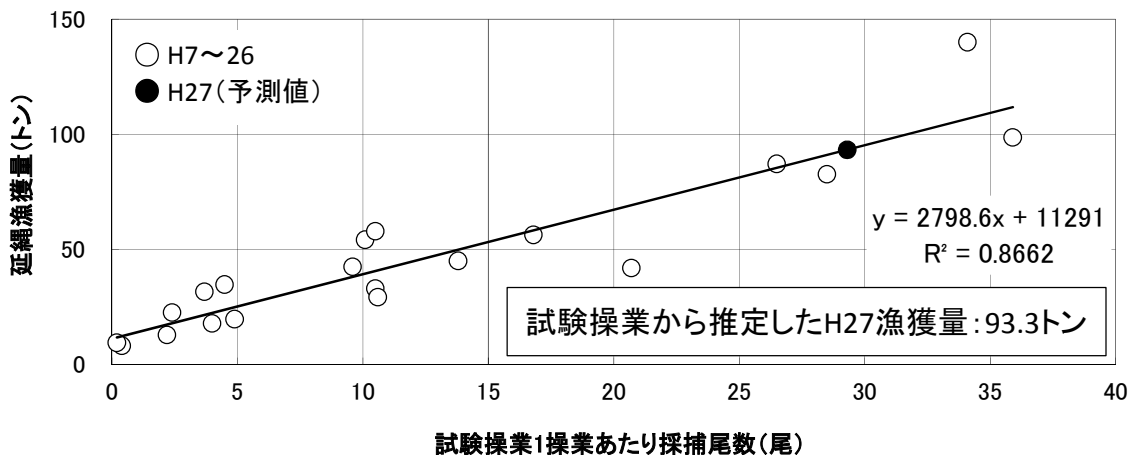
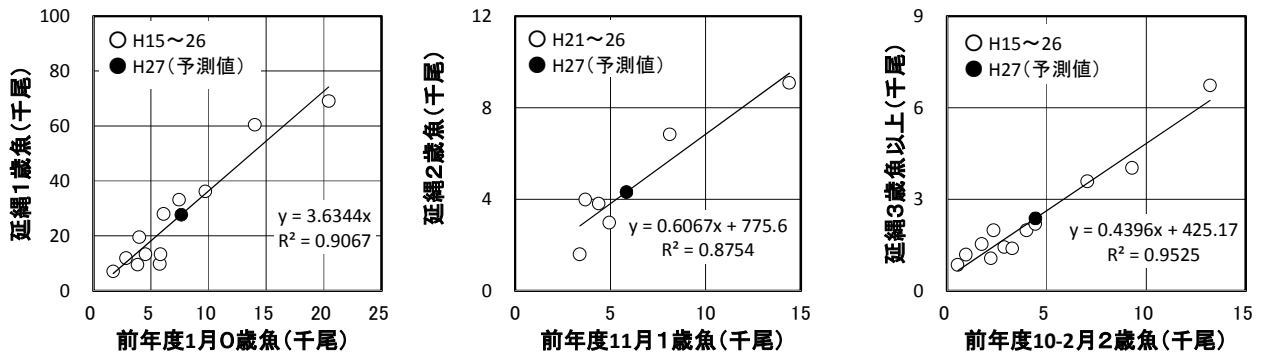


図3 1試験操業あたりの採捕尾数とはえ縄漁獲量の関係



前年度の漁獲尾数から推定したH27 漁獲量 : 47.6 トン

図4 前年度の年齢別漁獲尾数と翌年度のはえ縄漁業における年齢別漁獲尾数の関係

10月5日の初出漁日には、漁獲量が11.7トン（前年比154%）、水揚げ金額が30.3百万円（同158%）、平均単価が2,587円/kg（同103%）となりました。初出漁日の漁獲量から年間漁獲量を推定すると63.6トンとなり（図5）、漁期前の予測と同様に、今年度の漁獲量は昨年度を上回るものと期待されます。

しかし、漁期前半に一度に多くの魚を漁獲すると値崩れしてしまうので、漁家経営を考える上では、消費者の需要が高まり平均単価が高くなる漁期後半に資源を残しておくことが重要です。今年度の資源の特徴として、1歳魚の大きさがやや小さい点が挙げられます。小型のフグの再放流を徹底することにより、平均単価の安定や漁期後半の漁獲量の増加が期待されます。

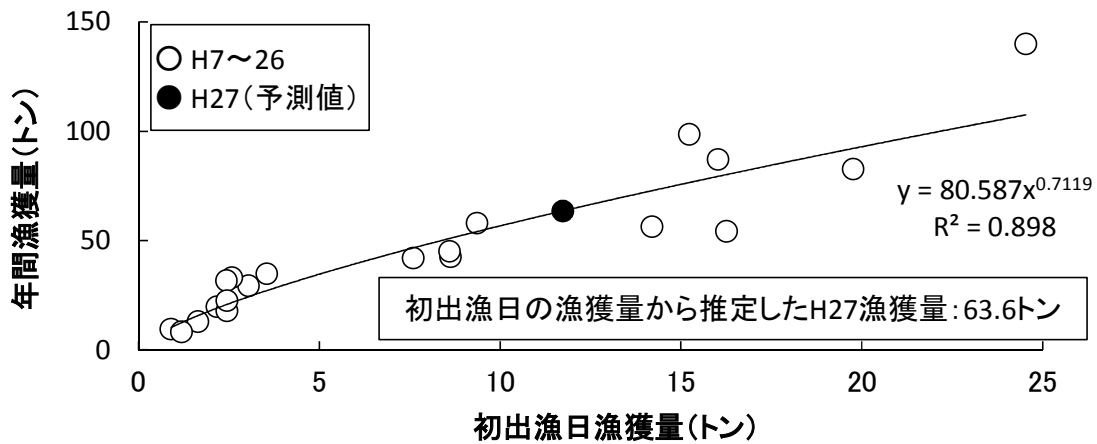


図5 初出漁日の漁獲量と年間漁獲量の関係